

様々な立ち場を照らしてくれるもの

増田中学校 佐藤 和奏

「バイトしなくても欲しいものが日常的に買える子がいると、あの子親ガチャ当たりだね、って言ったりします。」ニュースの街頭インタビューで大学生がそんなことを話していた。どんな親の元に生まれてくるかは運任せであり、スタートラインから不平等にできているという意味で使われることが多いようだ。それから頻繁に親ガチャというワードをネット上で見るようになり、何となくやるせなさが残った。果たして自分は当たりなのか、ハズレなのか、そんな事を考えてしまう時点で大当たりでもハズレでもなく、いわゆるモブキャラなのだろう。

母とテレビを見ていたある日の事だった。「日本の幸福度ランキングは四十七位なんだって。一位は六年連続でフィンランド。上位は北欧が占めてるみたいだけど、何で国民の幸福度が高いんだろう。」突然投げかけられた質問に言葉を詰まらせた。フィンランドの事は知らないが日本だってそこそこ幸せな国だと思う。ヒヤヒヤするニュースも多いが、戦争だってないし、食べ物も美味しい。親ガチャは日本だけのものではなく、運任せなスタート地点はどこ国だって変わらないだろう。そもそも幸せの基準はそれぞれ違うのに、ダントツの幸福度とはいったい何なのだろうか。

気になって調べてみると幸福度が高い国に共通しているのは、消費税などの税金の高さだった。フィンランドも二十四パーセントが課税されていた。好きなアイドルを推すのに四苦八苦してやりくりしている私にとっては頭が痛くなる数字だ。しかし医療費や学費が無料だったり、福祉などの社会保障が充実したりしているのに驚いた。給食が無料、大学まで学費が無料など、その内容は国によって様々だったが、進学率の高さ、寝たきりになってしまう高齢者の少なさなどを見て社会保障制度を国民が活用しているという印象を受けた。もしも「親ガチャ」にはずれてしまっても、挽回できるチャンスは与えられているという事だ。自分と他人を比較することなく自分の進む道を探せる事が幸福度アップにつながるのではないだろうか。

今回私が考えた「税金」とは、全ての人が数年後の未来を思い描き、こうなっていたら素敵だな、という希望への架け橋の様なものだ。明日への希望が持てなければ努力する気持ちもおこらない。それは若くても高齢者でも同じだ。私たち学生も納税者であり、その使途を理解し、自身が社会問題に目を向けて声をあげられる、そんな社会が築けていけたら幸福度の高い国に近づいていけるのではないだろうか。